

第25期滋賀県産業教育審議会委員名簿

任期 自：令和2年10月29日 至：令和4年10月28日（2年間）

（敬称略）

区分	氏名	現職等	備考	
産業教育に関し学識経験のある者	蔡 晃 植	長浜バイオ大学 学長		
	山 根 浩 二	滋賀県立大学 副学長		
	中 平 真由巳	滋賀短期大学 教授		
	産業関係者	川 口 剛 史	株式会社市金工業社 代表取締役社長	
		中 村 裕喜枝	たねやグループ 執行役員営業本部長	
		山 崎 泉	株式会社いと 代表取締役	
	学校関係者	秋 山 茂 也	滋賀県立瀬田工業高等学校 校長	
		中 川 孝 子	滋賀県立長浜北星高等学校 校長	
		中 村 俊 英	大津市立瀬田北中学校 校長	
※ 行政関係者	飯 田 朋 子	滋賀県商工観光労働部 モノづくり振興課 課長		

※：関係行政機関の職員

任期 自：令和2年12月23日 至：令和4年10月28日（2年間）

（敬称略）

区分	氏名	現職等	備考
専門委員	臼 井 正 士	滋賀県立長浜農業高等学校 校長	
	小 島 秀 樹	滋賀県立大津商業高等学校 校長	

第25期 滋賀県産業教育審議会 第1回会議 会議概要(案)

日時	令和2年10月29日(木)14時00分~16時00分
場所	滋賀県庁本館2階第2委員会室
出席委員	蔡委員、山根委員、中平委員、川口委員、中村裕委員、山崎委員、秋山委員、中川委員、中村俊委員、飯田委員 以上10名全員出席(敬称略)
県出席者	福永教育長、森教育次長、富江高校教育課長、村井魅力ある高校づくり推進室長、横井参事、伊吹参事、金田主査、他関係職員
傍聴者等	傍聴:2名 報道:1社

1. 開会

(1) 委員の委嘱について

委員に対して委嘱状が交付された。任期は令和2年10月29日から令和4年10月28日までの2年間とされた。

(2) 教育長あいさつ

開会にあたり、福永教育長から挨拶があった。

(3) 会議の公開等について

事務局より資料に基づき説明があり、附属機関の会議の公開に関する指針に従い、原則公開にて開催することとなった。

(4) 委員の自己紹介

委員より自己紹介が行われた。

(5) 会長および副会長の選出

委員から会長を蔡委員、副会長を山根委員とする案が提示され、全会一致で承認された。会長就任にあたり、蔡委員から挨拶があった。

2. 諮問

福永教育長から蔡会長へ「これからの産業教育の在り方について」の諮問文が手渡された後、富江高校教育課長から、本審議会の概要および開催スケジュール案について、資料に基づき説明があり、続いて、村井魅力ある高校づくり推進室長から、県立高等学校在り方検討委員会との関わり等について、資料に基づき説明があった。

3. 協議

(1) これからの産業教育の在り方について

はじめに、県立の各職業系専門高校の様子をまとめた学校紹介ビデオの上映が行われ、併せて、富江高校教育課長から国の文教政策の動向ならびに本県産業振興ビジョンについて、資料に基づき説明があった。その後、フリーに意見交換が行われた。主な意見は次のとおり。

- ① Society5.0時代の到来は、社会構造の変化だけでなく、人々の価値観も大きく変わることが予想される。社会からも生徒からも求められる魅力のある産業教育を考えなければならない。
- ② 学校現場で教えていることが現場では使われないものである一方、現場に必要な最新の技術を学校では教えていないといった、ニーズのギャップが生じている。

- ③施設設備の環境を整備していくためには多額の費用が必要となるが、もっと企業や地域と一体となって、環境を整えるべき。
- ④最新の技術だけを学ばよいのではなく、実際にモノをつくるための考える力や課題を解決する力など、基本的な資質の育成も学校教育では重要である。
- ⑤専門高校の出口（進路）として、就職と進学では、卒業時に求められる知識、技能は必ずしも同じではないため、2つのコースに分けてという考え方もある。
- ⑥普通科の学校も含め、何のために進学するのかといった目的意識がないまま進学しているケースが多く、働くことやどう生きるかといったことを考えるキャリア教育は充実させるべき。
- ⑦人にしかできない仕事、コンピュータがする仕事など、仕事の割り振りが一層進むことが予想され、産業教育としてもこの両面を意識する必要がある。
- ⑧就職するにせよ起業するにせよ、高校では成功体験ばかりでなく、挑戦と失敗を繰り返し経験できるような仕組みが重要である。
- ⑨他府県の高専では、卒業生が開発したプログラミング機器が大手企業の教材に採用されており、社会に必要なものをスピーディーに提供できる専門人材の育成は本県でも必要である。
- ⑩専門高校への志願倍率は低迷しており、中学生やその保護者への広報の在り方や魅力づくりは大きな課題である。
- ⑪工業系の専門高校では、実習に必要な機械が高額であり、また複数台揃える必要もあることから、学習環境の整備は非常に難しく、機器の更新も進んでいない。
- ⑫中学校から上級学校に進学する際の目的を、生徒本人だけでなくその保護者に対しても、しっかり説明していかなければならない。
- ⑬滋賀県は琵琶湖を擁する県であり漁業も行われているのに水産を学べる学校がない。滋賀らしさという点では、今後の産業教育として考えていくことはできないか。
- ⑭中学生にとっては、職業系専門高校を卒業した時、就職であれ進学であれ、どのような姿になっているか、その出口が魅力的であることが大事で、それをしっかりと伝える必要がある。
- ⑮地域、近隣の方々に、この高校ではどのような教育をしているのかを理解してもらう機会が必要であり、それが学校と社会をつなぐ接点となる。
- ⑯資格を取るというモチベーションが、生徒の意欲を駆り立てることにもつながることもあるので、教育の成果という点として大きな意味を持つこともある。

議論のまとめにあたり、蔡会長から第2回審議会に向けて2点の提案があり、いずれも事務局で対応することとなった。

(提案1)

農業、商業の学校現場の意見を聞くために、審議会規則第5条の専門委員として、新たに校長を招聘する。農業は長浜農業高等学校の白井正士校長、商業は大津商業高等学校の小島秀樹校長の2名とする。

(提案2)

委員が産業教育設備等の現状を見るための学校見学の機会を、第2回審議会までの間に設けることとする。

4. 閉会

閉会にあたり、森教育次長から挨拶があった。

次回、第2回審議会の日程については、12月23日（水）15時00分から17時00分で調整しており、委員には改めて通知することとなった。

第25期 滋賀県産業教育審議会 産業教育施設・設備 学校見学会 結果概要(案)

日時	令和2年11月27日(金) 9時45分～14時15分
行程	9:45～10:40 滋賀県立彦根工業高等学校 見学 11:20～12:25 滋賀県立長浜北星高等学校 見学 13:10～14:15 滋賀県立長浜農業高等学校 見学
出席委員	蔡会長、山根委員、中平委員、山崎委員、秋山委員、中村(俊)委員 以上6名出席(敬称略)
県出席者	横井参事、伊吹参事、金田主査、他関係職員

1. 産業教育施設設備・学校見学会の概要

(1) 滋賀県立彦根工業高等学校

電気科 … 電気工事実習室を見学

機械科 … 機械実習の授業風景(旋盤実習・溶接実習)および機械加工実習室、FA実習室等の施設や設備を見学

建設科 … 製図実習の授業風景を見学

その他 … 生徒が制作した多くの作品を見学

(2) 滋賀県立長浜北星高等学校

福祉系列 … 生活支援技術の授業風景(排泄介助の演習)および介助用トイレや浴室の福祉総合実習室の設備、痰の吸引などの機器を見学

メカトロニクス系列 … 実習室(旋盤や自動車分解整備設備)、CAD室などを見学

情報電子テクノロジー系列 … 高圧電力演習設備や電子計算機室を見学

(3) 滋賀県立長浜農業高等学校

農場施設 … 草花温室ハウス、草花園を見学

農業技術センター … 食品加工実習等が行われている農産加工室、畜産加工等を見学

各畜舎 … 飼育されている馬や牛などの動物を見学

その他 … 全ての農業機械(トラクターやコンバイン、ホイールローダーなど)の定期点検が職員の手で行われており、その様子を見学

2. 参加委員からのコメント

- ①各科の実習内容や第6次産業化を見据えた教育、農業高校に特化した課外活動など充実しているように感じた一方で、現行の機器、施設、設備の陳腐化、老朽化がかなり進んでおり、スマート農業などの最先端技術に対応した学習が行えているのか疑問に感じた。
- ②学校現場では、最先端の設備は必要ないと思うが、生徒が安全に正しく基礎的基本的な専門知識・技術を身に付けることができる教育環境の整備は必要である。
- ③各高等学校で掲げている教育到達目標を実現するためには、今ある現状の備品、機器、設備では不十分なこと、老朽化が目立ち危険もあることに驚いた。
- ④今回の視察した3校は、卒業後の進学比率が比較的高いことや、この比率がどんどん上がってきているということを聞き、県内の産業教育の現状を知る上では非常に有効であった。一方、専門高校への進学者が年々少なくなっている原因については、資格がとれるという強みが、専門学校と比較したとき、その優位性が失われつつある。

- ⑤それぞれ専門分野の大学への進学を目指す進学コースの設置や、新時代の技術に対応可能な新たな分野の新規創設、産業分野を担う教員の養成に特化したコースの創設なども検討する必要があるのではないか。
- ⑥実習設備・機械の老朽化について、大企業の機械の買い替えや遊休設備を効率的に融通してもらえるような県と企業の連携もしくは提携の仕組みを作ることはできないか。
- ⑦中学校への専門高校の情報発信について、大人が知らない情報を家庭で子どもに伝えるのは大変難しいのが現状であり、情報発信不足を感じる。チラシや資料を作っても子どもたちに魅力は伝わらず、専門高校の魅力をしっかり伝えるためには、子どもたちが興味を持つような動画をつくり、県内の中学校教育の現場で進路のイメージに使ってもらえるような素材を作りこむことが必要である。そのための予算を組み、プロの視点で専門高校の良さを編集してもらふ必要性を感じる。
- ⑧実習室の空気感や生徒たちの姿から手に職をつけることのできている自身への自信と誇りが感じられ、しっかりと未来に向かう表情から3年間に得ているものの大きさを感じとれた。これから進路を選択する中学生たちには成長した高校生たちの姿に出会ってもらふことが専門高校の魅力を伝えることになるのではないか。
- ⑨実習設備は旧式のものが多いかもしれないが、そのシステムや構造などの基礎を知ることが大切なことであり、それが将来の現場で応用する力になっているのではないかと感じた。
- ⑩それぞれの学科・科でどんな力を生徒に身に付けさせることが、その生徒の将来につながるのか、また、学校に求められる使命が、どこでも通用するような、どこからか借りてきたような言葉ではなく、県の特徴をとらえた真摯に学ぶ生徒の姿を思わせる表現で、機器類・施設の更新理由を述べる必要があるのではないか。
- ⑪その際に必要なことは、本県のもつ特徴的な産業や経済状況を分析し、将来を展望（学んだ生徒たちの進学や就労につながる）することではないか。
- ⑫産業構造が変化するなかで、どのような産業が中学生が社会に出る頃を中心にしているかを見通しにくくなっている。また、保護者の意識は保護者自身が高校や大学を選んだときの感覚のままになっていることが多いのが現状であり、どのようにして、専門高校の特徴やよさを伝え理解してもらえるかを検討する必要がある。